

新型コロナウイルス感染症防止に係る団体活動への影響等調査報告書

1 調査概要

(1) 目的

2020年3月に実施した第1次調査から3か月を経て、コロナ禍による市民活動団体への影響がどのように変化しているのかをあらためて調査し、活動のオンライン化をはじめとした3密回避行動に対する市民活動団体の姿勢および課題に焦点を当て、その状況を明らかにすることで、市民活動団体の3密回避行動を支援する当財団の方策づくりに生かすため。

(2) 内容

市内の市民活動団体がコロナ禍により被った影響、新たな取り組みなどの状況、センターに期待することなどを、電子メールでのアンケート調査によって集計する。

(3) 調査期間

2020年7月初旬（回答期限は7月5日）

(4) 調査対象

センターがメールアドレスを把握している団体（898団体、6月30日現在）

(5) 設問内容

現在のコロナ禍による活動への影響の有無とその内容、オンライン化の取り組みの有無とその内容・期間、オンライン化にあたっての課題、3密回避行動の状況、センターに期待すること

2 回収結果

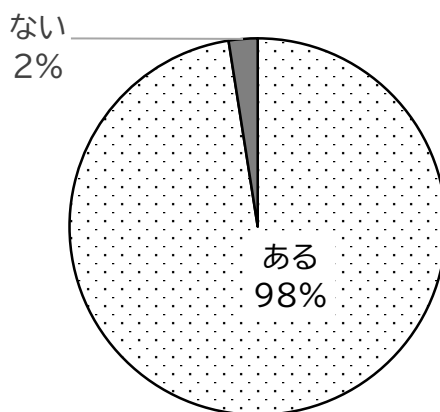
回答数：121団体

回答率：13.5%

3 アンケート調査結果

【設問1】 現在も、貴団体の活動にコロナ禍の影響はありますか

問1)現在の団体活動への影響について
(n=121)



【設問2】 前問で「ある」と答えた内容をお書きください

《回答内容》（自由記述、編集済み）

活動への影響

- 会場の定員があるため、人数制限がある。
- 出席率低下や、反対に皆勤賞を止めたりしている（無理して来る方がいるため）。
- 対面での朗読や高齢者施設訪問の自粛。
- 主な活動の場である、とどろきいこの家では、7月中の将棋対戦が禁止。大会、練習ができない。
- 通所先が休業の場合の日中支援が困難。
- 会場に参加する人数の限定、それらのメンバーへの消毒や座席位置の対応等、ランチ会の一時中断
- 外部での実習が全て中止になっている。利用者が通所できず在宅訓練を導入した。
- 活動を中止している。
- 今年度の集会については会場の関係もあり延期することにした。
- 児童養護施設・障害者支援施設での支援活動が中止のまま（一部別の形で推進）。
- 対面での会議・活動が難しい。
- 毎月の勉強会を気楽にできない。
- 対面形式、多人数、狭会場での各種チャレンジ教室の開催が難しい状況である。
- 活動の自粛、書面決議による理事会、みなし社員総会、イベントの中止、売上減。
- 3密状態になる可能性が高く、活動自粛中です。
- セミナーの開催の中止。
- 子ども向け科学教室の開催が難しくなっている。

- 街頭行動での工夫が必要となった、チラシ印刷などが困難であった。
- 3月から全ての活動停止、6月からバンド練習再開するが演奏会（歌声、老人ホーム）の開催は未定。
- 水泳教室が開催できない。
- 当館会議室で実施していたリトミックの参加者が親子20~30組(約40~50人)だった参加者がソーシャルディスタンスの関係で7組となり親子へのリトミックの機会を逸しているし参加費も大幅に減少、講師への謝金も満足に払えなくて困っている。また野外のイベントもイベントそのものの中止、または大幅な参加者のダウン余儀なくされている。夏休み体験教室も早々に中止せざるを得ない状況。
- 総会、編集会議をほとんどメールで行った。本年度の活動計画である川崎の環境の歴史書の編集事業において、資料収集作業および編集委員会等の会議が全く進められなかったため、編集事業計画が大幅に遅れている。
- 3月~5月は開催自粛、6月は準備を兼ねて食品の配布を実施、7月からは完全入れ替えの予約制で開催予定。できる限りの対策として、使い捨て弁当容器に入れその場で食べてもらう、消毒回数の増加・使い捨て手袋使用の徹底など、衛生面に更なる配慮が増加し負担となっている。（こども食堂）
- 2月下旬から4月まで活動を完全に休止。5月からは、決められた場所（中原区役所）に参加者（地域の高齢者）に教材を取りに来てもらったり、屋外で体操を行ったりする形で、活動を一部ではあるが再開している。
- 今年3月から6月まで、予定されていた10数回の公演すべてが中止となり、8月・9月も公演先から中止の通知をもらっている。
- 傾聴訪問先施設において、感染予防の為、外部よりのボランティア受入制限を行っている。ボランティア側としても、訪問自粛中。
- 登戸研究所資料館のある明治大学キャンパスに入れない。
- 対面でのイベント実施ができず、オンライン開催に移行。
- 被災地での受け入れ困難。
- イベント数が激減し、活動を最小限に抑えざるを得ない。また実施できるイベントについても参加者が集まらず苦戦を強いられている。
- 感染対策に手間をかけている。出前教室の依頼が激減。
- 発表会が開けない。
- 3か月活動できなかった。7月から活動するが3密対策をとるため半数づつの活動になる。
- 事業の一部が中止に追い込まれた。また、事業推進や事務局の会合が実施できないままである。
- 当団体は高齢者施設の活動や、会員宅の家事等の支援活動のため、人との接触があるために不向き。
- 活動は再開したが、短時間少人数制でと、今までとは形式を変更して行っている。また、再開してもご自身またはご家族が高齢の方や持病のある方などは参加したくても参加できない状況。
- 研修の延期、講師依頼の延期。
- スケジュールがたてられない。

- 指定管理者との協働事業は中止または延期となっている。
- 視察等に出掛けられない、いつになったら出かけられるのか見通しも立たない、出展を予定していたイベントの中止、自転車ルール教本が売れない（講習会等を開催できないためと思われる）等。
- 定期的通院・施設利用の自粛で、移送利用が減少。一日何回もの病院の検温・暑い中でのマスク着用、および感染リスクへの懸念でスタッフのストレス増大。
- まだカフェを開けない。
- 少人数のイベントは再開しているが、大きなイベントはまだできず。9月に開催予定だったものも、中止が決まった。
- 3月から活動を休止したままで、子どもたちの安心安全を第一に考えて、今しばらくは様子見の段階。
- キャリアコンサルタント向けの資格更新講習がすべてオンライン受講に変更になっている。
- 自粛で活動ができない。使用会場が取れない。感染が怖い。
- 小学校の給食がストップしたためきなりっこ石けんの売り上げが落ち込んでしまい、回復できないでいる。運営している地域活動支援センターのレクレーションなどの活動が制限されている。
- 6月より活動場所北身館の使用が可能となったので活動再開した。手袋・マスク持参、その他の感染対策グッズは会館で用意していただき助かっている。北身館での朗読は発生時に呼気拡散防止のための仕切り板がないので現在は中止している。北身館に仕切り板（クリア幕）の購入を要請した。
- 児童、生徒を対象とした自然体験教育活動を運営しているため感染防止策を施しても保護者の理解は得づらい。
- おもちゃ病院の開催ができない（できなかった）。
- 合唱練習ができない。
- 障害者の方の日中活動の場なので、部屋の中では間隔をあけ距離をとるようにしている。レクリエーションは比較的密集して行うものが多いため、できないものも多い。また外出などもいかれていない。人の出入りは制限している。
- 開催予定の場所が利用禁止になっています。
- 活動が制限される。（日程的に、参加者の参加の仕方など）
- 傾聴訪問先が介護施設などであり、訪問再開は見通せない。
- 3月以降、コロナ影響で講座をすべて延期。
- 予定していたイベント開催が難しい。スタッフミーティングが対面で行えない。
- 全ての活動が停止。
- 市内の小中学校は授業は通常に戻ったが、体育館の利用については、自粛が継続中。そのため、14倍以上の金額で施設を利用している（300円→4,320円）。このままいくと1年の活動予定が、あと数ヶ月で終了を余儀なくされる。
- 活動の多く（3月～7月）が中止または延期になった。
- 作業中は3密に注意、マスクを着用。
- 活動の制約があった（2か月半休み）。
- レコードコンサート、ライブなどの催事活動。
- シッティングバレーボールの練習場所が

- 閉鎖となり、練習がまったくできなくなった。大会も中止になった。
- 聴覚障害者の社会参加を情報保障で支援をする団体。自粛要請等を受け聴覚障害者の支援が難しくなった。また、当協会研修などにも支障を来した。解除された現在も影響は大きく残っている。
 - 青少年科学館との協働である生田緑地観察会は中止。班によっては、調査活動休止。生田緑地ホテルの国は開国しなかった。里山の自然学校の第1回春の里山は中止。4月中の里山倶楽部では公共交通機関でのアクセス禁止。
 - 現地(フィリピン)の子どもたちが医療を受けることが困難になった。
 - ①記念行事のコンサート、レセプションの中止。②例年9月開催のコンサートの中止。③音楽講座の中止。④実行委員会などの会議ができなくなった。
 - 私どもの団体は遊びやものづくりを主とした対象としているので、どうしても対面でなければできないことをやっている。そのため、多くの活動を中止、大きなところでは50年近く続いている全国大会を中止した。
 - 秋開催の海外と関わりのあるイベントの中止。日本出国の目途がたらず海外公演の中止。お祭りなど地域イベントが中止になり参加ができない。子ども、高齢者施設でのイベント開催の未決定。
 - こども科学教室のキャンセルがあり、今後も活動の見通しが立たない。
 - イベントが開催できなかった。
 - 「親子の戸外での環境学習」活動は、現在休止。前回アンケートでは休止していたので「影響なし」としたが、今後、コロナ禍での3密を避けることまでしての活動を開始する状況にはない。
 - 活動が室内であり、高齢者会員が多いため、参加人数を制限せざるを得なかった。
 - 団体のミーティング、講師との打ち合わせ等の予定が立たなくなった。団体のミーティングは、Zoomでの打ち合わせ。講師によりZoom、メール、LINE等で連絡は取っている。
 - 2月末から活動中止として再開が6月1日で、その間連絡調整等メール等にての実施となる。
 - イベントそのものの開催ができなかった。
 - 歴史散策や文化体験を主体とする収益事業がペンディングとなっている。ガイドの解説や実体験はどうしても蜜になるため、実施が難しい。
 - 3月時点で新年度の計画に予定を組み入れることにしていたが、FP協会で8月までの自粛要請もありまだ目途が立っていない。
 - セミナー・相談会ともに3密に該当するため実施できず。
 - 小中学校での「平和学習授業」を催したいが、学校の状況を考えて自粛する予定。持病持ち集団のため、会議(集まって)ができない状況。
 - 9月までの公演が無くなった。それ以降も状況次第という仮のお約束での状態。メンバー自身に活動する余力があまりない。
 - 公共施設の利用人数が限られ、会場変更による会場費増、総合自治会館閉館中のため選択肢が限られている。入会希望者の体験入会をお断りしている。
 - 3月～6月まで休講。

- 福祉機器のモニター依頼を受けていたが、企業が法人事務所に来られなくなった（移動自粛）。当会の広報に企業・学校訪問を予定していたが、訪問できなくなった。
- 毎年専修大学のインターンシップの学生と市民団体が協力して二ヶ領の一斉清掃を行っていたが、コロナ禍で学生の参加が無かった。
- 市民向け講座を開催することができないに伴い事業収益を上げることができない。市民自主運営で講座が運営されているところ、市民が出会い、交流をする場を提供することができない。
- 講演会を5月頃に予定していたが、9月以降に延期。さつき会（食事会）を5月～毎月開催を予定していたが、8月以降に延期。
- 年に1度の一般観客向け「腹話術のつどい」（3月）が開催できなかった（中止）。出演要請が軒並みキャンセル。また、毎月の例会に会員を大勢集めることができず、活動が停滞。

会合や打ち合わせへの影響

- 打ち合わせ、総会の見合わせ。
- 世話人のほとんどは高齢者で、外出が困難であり、定例会合開催に支障あり。
- 会合・打ち合わせが4月から3か月間持てなかった。
- 対面よりも Zoom 会議を優先させている。
- 例会を開けない状況が続いている。
- 2月中旬から6月中旬までリアルな活動は自粛。現在も様子をみながら小規模で。メール、掲示板、Zoom ビデオ会議勉強会のみ実施。
- 4月の定例会はオンラインで行った

- 会員や事務局員などの多くが中原区におり、会議などの会場として利用させていただいていたため貴センターをはじめ公的機関の閉鎖による活動の停滞を余儀なくされた。
- 会議や集会などができない
- 定例会等の開催場所が閉鎖のため、休会となった。
- コロナ禍以前のような対面形式でのワークショップの実施やスタッフの研修・打合せができていない。
- 会議等を最小限にしている。不安もあり、今後の活動計画を立てるのが難しい。
- メンバーが会って、練習や公演ができなくなっている。
- 例会、学習会、読書会がすべてオンラインに変わった。
- 打ち合わせをネットで行うことが増えた。
- 多い人数の会議・研修会など開催できていない。
- 4月開催予定の総会と定例会の二度の延期。
- 活動センターフリースペースの使用時間が午後5時15分で打ち切れ、午後6時からまたは6時半からの定例会が開催できない。
- 会議が定期的に開催することができなかった。
- 毎週木曜夜間に活動センターの会議室を借りてミーティングを行っていたが、7月第1週までの利用ができず、ミーティングが開催できなかった。
- 役員会や研修会が中止になった。

その他の影響

- 新規メンバーの募集が例年に比べ少ない。
- 毎月1日号の音訳を担当していた市政だ

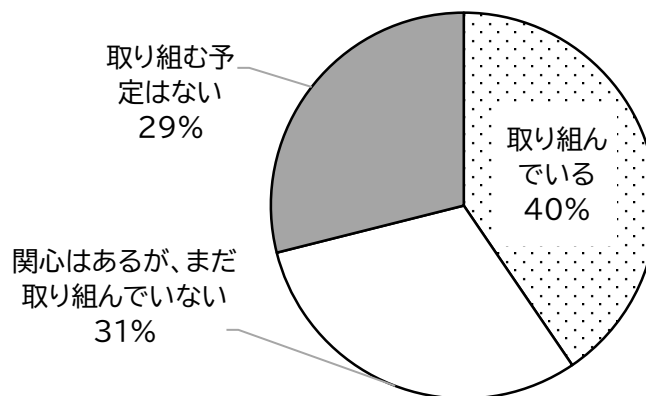
よりも、まだ休刊中なので、収入が減少している。

- 会議の開催場所の確保。通信費の増加。事業の中止。会員の近況情報不足。
- 2つの大きなイベント企画が中止（無期延期）となり、運動を拡げる活動が縮小

した。他団体のイベントも全部中止になり、直接会って発電所4号機の建設協力を募ることができなくなったため、お金の工面に困っている。発電事業の収益については影響なかった。

【設問3】 オンライン化に取り組んでいますか

問3)活動のオンライン化について
(n=121)



【設問4】 前問で「取り組んでいる」と答えた内容をお書きください

《回答内容》（自由記述、編集済み）

- 理事会および常勤会議等はすべて Web 会議。
- 月1回オンライン開催を行なっている。また、毎月の定例会もオンライン開催を行なっている。（全部ではないが）
- 総会、理事会、月例会のお試し実施。
- 原則、役員ミーティングも通常の団体活動もオンラインで実施。ゲストのオンラインによる参加も受付。
- 対面を Zoom 会議へ。
- 各種会議を Skype 活用で行っている
- Skype・Zoom での会議開催。
- Skype で勉強会を実施。
- Zoom などによる理事会の開催。
- 会議や集会を Zoom でやっている。
- 役員会などを Zoom ビデオ会議を使って実施。Zoom ビデオ会議の仕方を作成し、実際に Zoom ビデオでの勉強会を実施。

- Zoom などによるオンライン会議を取り入れている。
- Zoom による事務局の打ち合わせ。
- 会議を Zoom で実施を試みたが、本格的には、実施できていない。
- 当グループだけの取組みではないが、オープン、男性のみ、女性のみ、の3タイプのオンラインミーティングを開催している。
- Zoom での打ち合わせ。昨年度の活動に参加したメンバーの希望があり、Zoom を使用してのワークショップを4月後半より実施している。
- Zoom を利用して、内部打ち合わせは実施できた。
- 総会等大勢での会議は LINE またはハングアウトを使用している。連絡・報告は、全てラインで共有。
- スタッフミーティングは、オンラインにて行っている。
- Zoom (PC 以外にスマホ対応含む) または LINE (携帯電話含む) で交流を続けている。
- 連絡は LINE またはメールで。事業計画等資料の共有は doropbox で。
- facebook で、常に連絡を取り、日々の状況確認をした。
- HP の充実。Zoom による会議やサークル活動の実施、動画配信。
- リモート教室の開催に向けての準備と検証、調査、実験等の実施
- イベントをオンラインで行えるよう試行錯誤している。
- イベントの Zoom での開催。
- Google meet を利用して、例会、ユーザーとの打ち合わせ、入会希望者との面談、オンライン勉強会を行っている。会うのとほぼ同じ効果が出ていると感じている。
- 指導員の勉強会。
- 5月の連休に、川崎セブンスターオンライン LIVE を2回実施した。そのLIVEには、一般の方以外にも5つの介護施設が参加された。
- コロナの状況で対面の会議ができない時にはオンラインで行う用意がある。
- 法人の持つセミナーコンテンツをオンライン化しようとしている。
- ブログにて活動報告、LINE 公式アカウント設置 (2019年より継続)。
- オンラインで記念イベントを開催。また、定期的に戯曲を読む会を開催。
- かねてよりオンライン化を進めていたため、今年新たに取り組んだことはないが、定例会・総会等はメール等でも実施できるようにしてあった (2017年度より)。自転車ルール教本などは電子書籍版も提供していた (2016年度より)。
- 4月からオンラインイベントを開催しているほか、オンラインでの打ち合わせなどを実施している。
- 活動センターが閉館中に、Zoom を使いリモート会議を2度ほど開いた。しかし所有機器の能力、個人のスキルの差異があること、またセンターが再開されたこともあって、久しぶりにリアル会議にしようと声をかけたところ、会員が9名と小規模なので、ほぼ全員が賛成して出席した。次回もリアル会議で定例会を実施するが、一部はそこにスマホの動画通信で参加することになった。通信の活用に取り組んでいる。
- 講習は打ち合わせ等はすべてオンライン

で行っている。

- 市民自主学級のオブザーバー・講師として、10月から開催の学級をオンラインで行なう準備をしている。
- スタッフのミーティングはオンライン形式にした。ワークショップ等のオンライン化も進めている。
- Skype、Discord、LINEを使って、読書会、講座等を行なっている。
- 従来より、連絡にはメール、LINEを活用しているが、さらにリモート会議を開いて、意見交換・連絡を密にしている。
- 事務局内の打ち合わせをオンライン化し実施。今後は、オンライン講座の開講を計画中。
- 外出自粛期間の在宅勤務時、オンライン会議の実施。YouTubeでの過去作品や所蔵していた動画を配信。
- 全員参加とはいかなかったが、情報交換

をすることができた。

- 月1回の定例会議。通常総会。
- 実行委員との会議をリモート会議に変更した。
- 事務局の運営(会議や事務処理)においては、在宅勤務者と事務所勤務者および役員との情報共有化をしている。市民講座については、再開に向けて、一部オンライン講座の実施を検討している。
- コロナで例会に参加できない会員にオンラインで指導したい。腹話術を見たいという人のために演技している映像を提供することも考えたい。
- コーチの指導でわからないことを聞く。それらの方法として、リモートはあった方がいいと思う。人によって、パソコンやカメラが無い人が半分はいるので、今回取り付けて、3密を回避したいと思う。

【設問5】オンライン化にあたっての課題があればお書きください

《回答内容》(自由記述、編集済み)

インフラ環境

- オンライン環境の整備と知識の習得。
- パソコンあるいはスマホなど、基礎的な機器を持たない会員もあり、技能の面でも無理がある。
- 個々の会員に対するインフラ整備ができない。
- 個々で考えに相違やWi-Fi状況が異なり、対面かオンラインかを判断することが難しい。両方できることが望ましいので(対面会議とオンライン会議)、活動センターのWi-Fi環境について考えていただきたい

い。

- 参加者である地域の高齢者全員がオンライン化環境を装備すること。
- 各個人のインフラ環境が揃っていない。傾聴手法として未知数な点が多い。
- 運営委員会などで活用してみたいが、環境が揃わない。
- 通信環境の整備。
- システムアップが難しい。
- 十分な機材、ネットワーク環境が不十分である。誰もがオンラインツールを使えるわけではないため、参加できる人、主

体となって実施できる人に限りがある。

- メンバーの中で、環境が揃わない人がいる。メールのみ共有している。
- パソコン等の機器が古い。通信回線の速度が不十分。ITに強い人材の不足。
- PC やスマホの新規開設が必要な団員が多い。
- スマホや PC をメンバー全員が使える環境にないので、一部で行っても偏ってしまう。これまでの時期は学校などのオンラインのために家の PC を使うなどするため優先順位を考えると難しい。
- Zoom の利用時に当たって、PC 無線 LAN の場合は画像と音声不安定になる。高齢者の場合は、PC の操作ができないためスマホ利用を勧める。
- オンラインと集合会議のミックスが増えた。会議室をオンライン会議のスタジオとして使うケースがあるが、Wi-Fi 回線のスピードや、モニターなどの IT 設備・環境が不足しているため、やりにくい。
- 現地のオンラインの環境が良くない。
- 時間設定が難しい。機器がないと開催できない。
- 家庭ごとの電波状況により、つながりにくいことがある。音声のタイムラグがあること。歌が、ぐちゃぐちゃになってしまう。Zoom の使用料。
- オンラインに不慣れな人や、通信環境が整わない人は参加できない。
- 委員スタッフは高齢の方も多く、IT 環境やその対応説明に苦労があった。家庭内環境では各自通信速度の問題もあり世代によって対応できる・できないにおいて顕著な違いがあった。
- 高齢者が多くパソコンの所有者が少ない

ためオンライン化は難しい。

スキル・技術面

- スタッフの IT スキル。
- スタッフが OA 機器を使いこなせず、LINE での連絡が限界である。
- 各人の情報機器に関するリテラシーにばらつきが大きい。
- より参加がしやすくなるための Zoom の各種設定見直し（チャットログの自動保存、共同ホストの設定その他）。
- 会員が高齢者のため、オンラインに対応できない人が多いため。
- オンライン＝自宅の環境が見えちゃう、顔が見せないといけないと思う方が多いみたいで、最初、先入観でハードルが高いが、声だけでも OK なので、1度やれてしまえば、楽しくできるようで、最初の1回目がハードルがあり、やれる人とやれない人がいる。当会では 70 代でもできているが、小さいお子さんがいるメンバーの家は突然泣き出したり、やはり大変そう。
- 高齢者のメンバーについてはそのアクセスの仕方、捜査の指導にあくせくする。また、工作教室も講師のサイドはマイク等うまく映すための準備できるが受講者側のその実態を見せようとするとなかなか思うようにいかず一方方向的要素がまだ強い。
- Skype や Zoom をインストールできない人がいる。
- 体験教室の場合、オンラインではサポート体制がかなり制限される。
- オンライン化するだけのノウハウがない。
- 高齢者が多いグループなので、オンライン対応はハードルが高く難しいと感じて

- いる。
- 高齢者が多く、パソコンが使えない。
 - 会員の高齢化もあり進めるのは難しい
 - 会員は高齢者が多くスマホなど使いこなせず、出来る会員で有効に活用したい。
 - 高齢者が多いため、PCなどを日常的に使用できてない、連絡用にスマートホンは使用している。
 - 不特定多数に向けてのイベント開催方法、有料イベントの際の料金受取方法などの知識が不足している。
 - 95歳から55歳の体操の会なのでオンラインしてもできない方が多い。
 - 経験・知識が低く、ついていけない、馴染めない思いをぬぐえないところがある。
 - 現在の課題はオンラインのスキルアップ。
 - スタッフが、恐らく受講者も、オンライン学級に対して食わず嫌い、抵抗感が強い。
 - 事務局レベルでは調整できる範囲だが、定例会でも実現したいと考えているが利用できないと感じている。会員のITツールとITスキルにばらつきがあるので。
 - パソコン、スマホを使えない会員が多い。ホームページの更新技術や人材の不足。
 - オープンと男性のみのオンラインミーティングはZoomで、女性のみミーティングはLINEで行っているが、いずれもWi-Fi環境やITリテラシーの問題で誰でも参加できる状況ではない。
 - PC等を持っていない人がいる。方法が分からない。
 - 会員全員がオンライン化を実現できるスキルがない。
 - 高齢者集団のためハードルが高い。
 - PCを所有しておらず、スマホで会議参加となる人がいる。音声／画像が悪く、会

議はできるが疲れる。(資料の説明動画をあらかじめ作り、事前に視聴、その上で会議をしているが)

- それなりの知識のある方がいられないとできない。

オンライン化に対する懸念

- あるとすれば、Zoomのセキュリティの甘さや有料オプション費用の捻出。
- それぞれの顔が見えない、やはりオンラインだけでは不十分だと感じた。
- リモートでは細かい指導ができない。オンラインだけでは、親睦や健康増進に限りがあがる。
- オンライン会議では十分に伝わらないこともある。
- 対話を主体としており、リアルな場でない主観的に捉える事が難しい。
- 初めての試みのためトライアル&エラーが必要であること。オンライン化した内容について明確に良し悪しを評価できる人がいないこと。
- 雑談ができない、意外と会議の後の雑談から良いアイデアが出ていたように思える。
- 全体を見渡せる、反応を見る・感じる、ことが難しい。90分、120分のセミナーや講演会の参加・実施は辛い。

その他

- 機材購入のための予算の確保。
- 何から取り掛かればよいか見当がつかない。
- オンライン化できる活動ではない。
- オンラインではできない活動だと思うので。
- パソコンができる会員が少ない。土器づくりはオンラインではできない。

- 子どもたちは、ふれあいが好き。
- コロナウィルスの影響で多数での活動報告をしづらい（炎上の可能性を考えて自粛）。
- チラシを見て、行ってみようと気楽に足を運べて楽しめるような、同等の効果的な場を作れるのか課題。
- 資料の提供とレポート提出だけになっていて、集団会議システムが取られていない。
- ①無料だと参加者がいるが、有料にすると参加者がどれくらいになるか？また集金の仕方など、収益化する方途がまだできていない。②川崎セブンスターメインの公演先である高齢者施設、自治会いづれも、食堂やロビーに人が集まると密になるので、オンライン LIVE 実施に関して消極的である。③公演を DVD にして、公演先に配布することも考えられるが、演者の中には、自身の演目を一般化するには消極的な者もいる。また、音楽系の演奏については、著作権の問題も発生する。④Zoom を利用するとした場合、音が割れてしまい、スムーズに音響が伝わらないため、音楽系の演目につき工夫の余地がある。
- 会員や会の活動に関心がある人と顔を合わせる機会がなくなる。
- 事務がパートなので、勤務時間も短い中での電話対応の具現化。伝票・領収書・現金出納管理等雑務。小規模な事業所で、年配の個人相手に進められない。
- 私たちの活動は対面での朗読を重視しているため、オンラインに関しては難しい。
- 現場の製造業作業と廃食油の回収、石けんの配達など運送業が中心であり、オンライン化には程遠い。他団体との会議や学習会などには Zoom を活用する動きが出てきている。
- 今のところメリットの方が大きい。身体の不自由な方、高齢者、遠方の方も参加できるようになった。交通費がかからないところもよい。
- 収録作業を含む編集作業は、従来より活動日以外にも会員が在宅で実施しているが、それには、機器類の所有（現在は個人負担）が必要であるため、すべてをテレワークにするのは難しい。リモート会議も技術的に参加できない会員もいる。
- おもちゃ修理はおもちゃを持って来ていただきそのおもちゃを修理するので密に打ち合わせが必要となる。
- 当会では参加者同士のコミュニケーション（パパ友作り）も目的としており、オンラインでのどれくらいの効果があるか不明。
- イベントでは、身体を動かしてもらったり、スタッフが触って確認することもありオンライン化には内容を練り直す必要がある。また、多くのオンラインサービスの出てきた中で、どのように集客していけばいいかなど課題も感じる。
- 練習はオンラインには向かない。
- 当団体ならリモート会議、リモート研修程度の利用。課題は全員の賛同が必要
- メンバーが介護、学童などの職員の方もおり、忙しくて時間が取れなかった。
- 会員への啓蒙。オンラインに弱い方へのサポート。
- イベント開催、公演など、オンライン事業化を進めたいが、内容の確定や生配信、中継の方法、または資金不足などもあり、

どのように進めればよいかわからない。

- 講座を開催した場合、密をさけるため参加者は限られる。会場には行きたくはないが、自宅でもなら聴講可能という方はいらぬのではないかと思う。オンラインで会場以外に自宅でもどこでも聴講できる映像配信システムがあると良い。
- 平均年齢が高いため、ネット環境がない会員がほとんど。実際に会って「顔色がいいね」「少しふっくらしたね」といった他愛ない会話が重要なことを、久しぶり

に集まって実感した。

- オンライン化によって、交流事業を実施している団体があれば、紹介してほしい。
- 関係者全員の情報通信技術の均一化。最新機材やソフトの選択と導入に関わる経費。直接接しないと伝わらない分野の処理方法。人的交流の希薄化。
- 高齢者が多いのでスマホや PC の操作方法などが難題。芸はやはり、観客と直接触れ合うことが一番なので間接的なオンライン化には抵抗がある。

【設問 6】 オンライン化以外の 3 密回避行動について取り組んでいること

《回答内容》（自由記述、編集済み）

- いこいの家では、将棋の対戦用の透明仕切り板を準備中。
- 利用者の夕食時等、グループ分けをして食事をとっていただいている。
- 1つのテーブルで2、3人にしたり、開催場所の消毒を行なっている。
- 対面会議室方式は換気とソーシャルディスタンスが取れる人数制限等。
- 対面を行う場合は、3密を避ける、ソーシャルディスタンスを考慮する。
- ランチ懇親会の一部廃止、会場参加メンバーの座席位置配慮。
- 市民館ホールを利用しての会議。
- 広い会議室を使用する。
- フェイスシールド着用、飛まつ防止シート設置、障害者施設の利用者の定員調整。
- 集団での行動において、それぞれの間隔を空け、マイクなども注意している。
- マスク着用、消毒、ソーシャルディスタンスを取る。
- 定例会時に、マスク着用、換気を図る、手の消毒、体温測定
- マスク、換気など。
- 散策会は近場で少人数グループ化、食事は外で弁当など。勉強会は、人数制限、時間短縮、参加できない人は資料で自習。
- バンド練習には距離を置き実施している。
- シフトによる分散通所。
- 来談者が重ならないように時間を設定する予定。
- 11月に開催予定のイベントで、会場、参加人数、演目の再検討を始めている。すべては、3密回避に関係している。
- 手指消毒剤の確保。カリキュラムの再検討。
- 定例会開催時期内容の見直し検討中。
- 活動場所が野球場なので密になりにくい。
- 集客を1/3に縮小など工夫をしている。
- 募集人数の少数化。実施先の団体に3密回避のためのアンケートのお願い。

- 作業場では2mの間隔を保つ。このため参加者を1日10名に限定。
- イベントや活動を休止にしている。少人数の会合やトライアルイベントを小さく始めることで法人として準備すべきことを明確化しようとしている。
- 少人数短時間制で一回に集まる人数を制限し、換気、アルコール消毒、マスク着用、ソーシャルディスタンス確保、活動前後の会員同士のお茶や食事などの自粛を行っている。
- 厚労省のガイドラインを参考。
- 活動場所の利用制限人数を守って一回活動人数を決める。入れ替え制の導入。
- 手洗いの徹底。
- 小規模な屋外イベントの開催を模索したこともあるが、具体化していない。
- 意識的な換気。行政等提出書類はすべて郵送。
- 体操の時クーラーは使用せず扇風機を2台首ふりにして トイレの窓も開けている。
- 稽古を部分的に行い集まる人数を減らしている。また8月に開く朗読会に際しては、入場者数を制限し、席の間隔を開けて開催予定。
- 少人数でのイベントでは、必ず換気をして、消毒ジェルやスプレーなど設置し、気を付けている。また、事前予約制にして密を避け、お客様にも体調チェックや検温を来場前をお願いしている。
- 今後は学校を参考に、短時間分散集会を予定している。
- 席を空けて座る。机を消毒する。マスクを付ける。出席名簿を作成する。
- 家で歌っていただけるよう「うたごえDVD」を作成した。
- 風邪症状・だるさ・息苦しさ・37.5度以上の熱がある方、最近2週間以内に発熱や風邪の症状で受診や服薬もしくは感染が拡大している国や地域を訪問した方、体温測定・手指の消毒・参加者名簿に記入・しゃべる時のマスク着用にご協力いただけない方は、参加をお控えいただいている。当分の間、終了後のアルコール消毒のため、終了時間を30分間繰り上げ。「お茶飲み話を楽しむサロン」での飲み物の準備はしないので、ご自身で準備いただくという案内をして開催。
- マスクの着用、検温、手洗いの実施。昼食は、食堂のほかに会議室を開放し、ソーシャルディスタンスを保ちながら静かに食事している。
- できるだけメールでのやり取りをし、会議等の集まりは間隔を空け、時短を心がけている
- 一時に活動する人数の制限。
- 会報の発行を紙版を最小限にし、PDFでの送付とした。(印刷、発送の3密を避けるため)
- 紙ベースでの活動(やりとり)。
- 会報の発行、手紙でのやりとり。
- 活動日には、作業内容により参加者を限定し最低人数で作業をこなしている。北身館での収録が必要な発行物は、収録時に複数人が密室にこもるので、目下、休刊中。在宅収録できるもののみ発行している。
- 麻生区感染症対策ガイドラインと柿生おもちゃ病院感染症対策取り組み書に基づき感染対策防止を図っている。
- 集まる人数の限定。

- マスクの着用、体温の計測など、3密に配慮していることをお知らせに書く。
- 屋外で数人で会話。例会はまだ先。開催するなら会場は定員2～3倍の会議室利用。
- 事前に、それもかなり早めに、参加人数をヒアリングし、大きめの会議室の予約をしている。
- 勤務者の入り口チェック、検温、消毒、ソーシャルディスタンス、面談者との面会に飛沫防止パネル設置、事務室の消毒など。
- 人数を時間で分けている。とくに集合時間と解散時間を数人ずつ分けている。体温を計り、消毒用アルコールで手を消毒している。練習時、会話時はマスク着用、会場は換気のため窓を開けている。練習後は消毒用厚手のエチケット用の厚手の布で台を拭いている。
- 会議する時2m以上の距離、マスク、フェイスシールド使用。開始前に机上、手などの除菌。連絡場所の保管等。
- 回避のため広い会場探しに奮闘中。
- 対面の場合は透明パーテーション使用。またはフェイスシールド利用。
- 少人数のグループでの活動の充実。
- 事務所でのマスク着用。来客時の消毒。
- 会議室利用が可能となるのに伴い、ミーティング再開を検討しているが、会議室の収容人数に対して何名までが妥当か、それを上回る参加者が集まった場合はどうするか検討中。
- 6月から役員会や研修会を行っているが、マスクの着用、人数を定員の半分以下にしている。換気の実施。
- 消毒・検温。人数の縮小。
- 親子の戸外活動が実施できる状況になっても、3密を避ける処置をしての活動の継続が難しいと判断している。スタッフ間では環境問題の研究は継続していく予定。
- ワークショップ会場の確保。広い会場を確保したいと思っているが、予算のことがあり、悩んでいる。
- 直接会えないので書類は郵送、お金は振込にした。
- メールや電話でのやりとりで今後の活動内容について意思疎通・情報共有を図っている。
- 広めの会場を取り、ドアなど開けられるところはすべて全開にする。
- 会館の指示通りの定員数を遵守。入館の際各自体温測定・手指の消毒・室内の定期的な換気。
- 対面での会議は、1m以上離れマスク着用。あちこち触らない。
- 屋外の活動であり、とくに道具等を使用して密にならないように心掛けている。
- 市民向けチラシ類の置き場を風通しのよい場所に設置。職員の在宅勤務を取り入れたローテーション勤務による事務所の空間確保。役員が来室しなくてもできるオンライン会議の導入。
- ソーシャルディスタンスを取る。マスク着用。手洗いの励行。
- 例会が開けなかった3か月間、講師が台本の添削をしたり、ネタや台本、資料などを郵送して関係が途切れないようにした。(これは有効だった)
- まず何よりもメンバーの気持ちを最優先にした。「やりたい」という気持ちがどのような形で現れるのか、このまま消えるのか、見ている。活動の形を変えるチャ

- SNS がきたように思う。
- 会合および催し物の中止を、当面続けざるを得ない。
- ずっと、集まっての活動は休止して、個人で出来ることを行っている。

- 集まらないこと。
- 活動の停止。
- 活動は中止している。
- 活動しないこと。
- 実施の自粛。

【設問 7】 当センターに期待すること（事業やサービス）

《回答内容》（自由記述、編集済み）

オンライン化へのノウハウの伝授・指導

- 工作教室をオンラインでやるときのノウハウの伝授等
- オンライン化のすすめみたいな詳しい方のお話、Zoom の活用の仕方。
- オンラインの使い方を具体的に教えてほしい。
- 実質的自粛期間中に、勉強する機会を設けていただきたい。
- 技術的な援助・てほどきをしていただけるとありがたい。
- オンライン会議の開催研修。
- オンライン導入の相談、入門講座開催など。
- リモート合唱を経済的に行う方法を教えてほしい。
- Zoom の利用方法等、レクチャー望む。
- コロナのある生活の中でごえん楽市や大きなイベント開催における模範を見せてほしい。課金制のイベント開催の方法など自立した活動をするためのセミナーなど開催を希望。
- オンライン化を進めたいが、①誰に相談していいかわからない。②オンライン化の見積もりを取りたいが、業者を紹介して欲しい。

- オンライン活用の講習会を開いて欲しい。

オンライン化に関する好事例の紹介

- オンライン化の事例紹介等、具体的な情報提供をお願いしたい。
- コロナ禍における他団体の活動やイベント紹介、発信は積極的に行っていただきたい。悩みは共通のものが多く、お互いにヒントになることが必ずあるはず。オンラインセミナー製作の伴走支援プログラムがあるとありがたい。それも作るだけでなく、その後の展開までフォローいただけるものが望ましい。
- 各団体がコロナ対策として行っていることで、他の団体にも参考になるいい方法があれば、是非紹介して欲しい。活動センターとしても何か提案があればお知恵をお借りしたい。
- オンライン学級・講座等の好事例の紹介。
- 諸ボランティア団体の会合開催や活動再開などの近況情報収集と提供。
- 他の団体の良いアイデアがあれば、発信・共有。
- 他団体の良いアイデアの情報発信・共有を。
- 新しい生活様式にもとづく市民活動の具休例の発信と、従来の市民活動の再開可

能性についての啓発。他団体の NPO 活動のコロナ影響対策の情報を発信希望。

3月に実施された NPO 研修などのリモート研修化。提出物への助言をオンライン対応で。

オンライン化に向けたセンター施設整備

- 良い Wi-Fi 環境
- 会議室での出席者とその他自宅から Zoom ビデオ会議ができる程度のインターネット環境の整備。
- オンラインの場合のネットワーク環境提供（有線 LAN、個室）など。
- 会議室等を利用して、オンライン講座等を発信することができれば。
- 会議室で講座を開催時、会場参加者以外の方（オンライン配信希望参加者）にオンライン映像配信ができるシステムを構築し、そのシステム利用を安価で提供して欲しい。

オンライン化以外のセンター施設運営


- 早く通常業務の時間帯に戻ってほしい。
- 消毒、換気、衝立あるいはビニール幕を使用した緩衝帯の設置。
- フリースペースや会議室にもシールド（パーティションで区切るなど）をつけてほしい。
- 5人くらいの部屋を教室として借りられないか
- これまでと同じく気軽に活用できるようにしてほしい。
- フリースペースの申込みを1週間前からではなく、いつでもできるようにしてほしい。
- やはり場がないと活動しにくくなってしまっているので、大変だとは思いますが、開けておいていただけると、安心感につながる。

- 活動センターに表示があったかどうかよく確認していませんが、「利用者は比較的高齢な方が多いと思いますので、「発熱、咳など体調不良の方は会合出席を自粛してください」ということを目立つように掲示していただくようお願いしたい。北海道のクラスターでは、「発熱があったが、久し振りに皆に会える折角の機会なので参加した人がいた」との報道があった。高齢者同士では有りがちとも思えるので、注意があった方が良く思う。
- 安全に利用できる換気の良い印刷スペース、会議スペースの提供。
- プロジェクターや大型モニターの常設を希望。設置、立ち上げに手間がかかる。
- できるだけ、通常の活動ができるように配慮してください。
- 事業；事務局から発信し、会員との双方向で会話できる仕組みづくりを期待。PC、スマホ、電話など異なる媒体を使った情報交換がしたいと考えている。サービス；利用人数の半減に伴い、会議室の利用料金の見直しをしていただけると助かる。支出が多くなるばかりでできれば現状に合わせて便宜を図ってもらいたいと思う。
- 会議室は、使用できなくても印刷作業は、少人数での作業なので、印刷室は解放して欲しかった。
- 感染拡大が話題となっている中、隣の市民館利用の扱いと、活動センターの扱い方の違いが気になる。利用では足並みを揃えるべきでは。
- 自主サークルだが、講師に謝礼を払って来ていただいている。活動センターの会議室は使えないと聞いたが、パンフレッ

ト等に「このような場合は使用不可」の記載をお願いしたい。また今回のような事情の時に限り、空いていれば使用できるようにお願いしたい。

その他

- 助成金給付団体なので、オンラインの伴走支援の対象となっており、とてもありがたい。
- リモート教室開催のための機材購入の助成。
- オンライン化について、機器の購入資金等を助成していただきたい。
- 社会福祉法人並びに NPO 法人の横連携の橋渡し役。
- どのような条件をクリアしたら、イベント開催ができるのか、共有できる基準があると助かる。
- 活動センター職員と Zoom など相談ができると、3 密も避けられて嬉しい。Zoom での相談やセミナー開催があると、参加しやすいと思う。
- 利用者が在宅で行える作業を提供していただくと助かる。
- できるだけ市民活動の保持に努めていただきたい。
- 今年は、コロナ感染拡大を予想して、公演ができなくなることを危惧して、かわさき市民公益活動助成金の受給を3月の時点で早々と辞退した。いま思うとオンライン公演が思いついていない時期であった。今後、オンライン公演をするのであれば、準備に多少の費用が掛かるので、今からでも、コロナ対策用の助成金を特別に用意していただけたら有難い。
- 野外活動でのコロナ感染の有無。
- ごえん楽市の開催。会員を増やすいい機

会なので是非工夫して開催してもらいたい。

- NPO 法人格取得に関するレクチャーの開催。かわさき FM など地元メディアとの協力により、密を避けながらも市民活動を続ける重要性や、登録団体紹介などを発信する番組を制作。
- 北身館に収録時の対面仕切り板（クリア幕）の購入依頼しているが、同様の品、もしくは代替え品を貴センターより貸出していただけると助かる。
- 各団体のオンラインサービスに市民がアクセスしやすいプラットフォームがあるとすごくありがたい。
- 行政からの要請に基づいた感染拡大防止策を今後も適切に行っていただきたい。
- 3 密を避けての活動のため、予算の変更をしなければならないことに対しての補償をお願いしたい。オンラインに関してのアドバイスや相談。
- 存在していただいているだけでありがたい。駆け込み寺のように感じている。困ったり、先に進みたくなったら知恵をお借りしに行きたい。